

19年度英語活動の成果と課題

「研究主題」 楽しく学び、豊かに自己を表現し、
進んで人とかかわろうとする子を育てる英語活動
～楽しい英語活動を求めて～

研究仮説

身近な英語を使った歌や遊び・ゲームなど、子どもたちが興味をもち、仲間と関わり合える活動を設定し、題材計画や活動を工夫して的確な指導・援助をすれば、子どもたちが楽しく学び、豊かに自己を表現し、進んで人と関わろうとすることができる。

1. 今年度の研究の成果 ・今後の課題

研究内容 1【英語活動の年間指導計画の工夫と改善】

題材の配列、語彙、文型における他の学年との関わり

(ALT との協力)

今年度 ALT と打ち合わせをしながら、月別カリキュラムからユニットの考え方を取り入れて加筆・修正してきた。

他学年との関わりについて、一覧表などにまとめながら今後も検討していきたい。

発達段階に応じた活動の開発

(題材や教材の選び方)

Play Time の活動を、児童の実態に合わせて少しでも興味をもてるように工夫したことが、児童が生き生きと英語活動をする上で有効であった。

外国の学習をしていると感じられるもの(例えば国旗など)は国際理解教育につながるので積極的に取り入れる。

発達段階に応じた活動がどのようなものかを、順序の入れ替えも含め今後も検討していく。

研究内容 2【楽しく学び、コミュニケーション能力を高める活動展開及び指導・援助のあり方】

実態を生かした学習活動の工夫

(Play Time での活動内容)

その日の中心となる言語材料や以前習った語句が何度も出てくる場を設定することが、児童が活動に安心して入ることにつながる。

仲間とかかわる中でその日のめあてが達成できる活動を設定することで、楽しく学びながら、自然に人とかかわることができる。

活動を高める指導・援助のあり方

(Play Time での教師の役割)

教師がデモンストレーション(ジェスチャー・具体物など)や中心となる言語材料を焦点化することで、児童が活動に見通しをもち、どう達成すればよいか分かる。

活動の途中で児童がつまずいたらどのように援助するかといった、HRT の授業への入り方を考えていく。

(評価について)

HRT のめあてに対して「こだわった指導」やめあてが達成できたときの「認める言葉」を児童に投げかけていくことで、児童の動きがめあてに沿ったものに変ったり、児童の自信につながったりすることが分かった。

「Comments Time」のみで評価するのではなく、英語活動のすべての場面で教師が評価を行っていくことは、児童の活動に対する意欲向上や自分に自信をもつうえで有効であった。

児童による自己評価や相互評価を、学年に応じてどのように取り入れるかを検討する。

教師は、ねらいに沿った活動になるように指導・援助し、ねらいに沿った姿を評価していく。また、評価の観点を具体的に指導案に明記していく。そのために「めざす姿」の吟味を行う。

2. その他、研究のベースになるもの(日頃の授業などで大切にしたいこと)

- ・ 日頃の学級経営(特に「話し方・聴き方・活動の変わり目のけじめ」など学習の規律に関することの指導)と児童理解を大切にす。
- ・ 児童に、「なかよしの言葉」を使うよさを知らせる。
- ・ 児童が進んで英語で話したくなるような環境(英語があふれる1時間)づくりを行う。そのためにも、HRT が classroom English をもっと使うようにする。(普段の授業から積み重ねる。英語の時間なので、英語でいっぱい環境を作る。)また、掲示の整備を行う。(その場所に1歩入れば、そこは、外国といった雰囲気づくりをする。)